

## 今回も快晴に恵まれた秋の遺跡見学会

# 奥州白河の豊かな歴史と自然に感動の2日間!!

## 「奥州白河の遺跡をたっぷり満喫する旅!!」参加報告

大滝駿介（新潟大学大学院）

### はじめに

これまで福島には何度か足を運んだことはありましたが、その土地の歴史については特に気にかけずにいました。また、少し自分の研究に新しい視点を取り入れたいと考えていたため、ちょうど良い機会だ、と思い参加させていただきました。みなさんには知識など及ばない点が多いですが、見学の感想などを書いていきたいと思えます。

### 小峰城

最初の見学地は小峰城でした。ここでは3.11地震によって崩れた石垣と、その修復の様子を見学しました。全部で10箇所が崩落していて、見学したのは一番大きな崩落があった部分でした。この箇所は一度大雨で崩落してしまったことのある部分で、その時の補修の際にコンクリートなど頑丈な素材を裏地に使用していました。しかし、コンクリートで固めたことが裏目に出て一斉に崩れてしまったそうです。今回の崩落のあと、地山の観察を行ったところ、この部分は城を立てる際に谷を埋め立てたことがわかり、水はげが上手くいかず最初の崩落が起こったのではないかと考えられています。

現在、崩れた石材は位置を測量し、番号振り、個別にカルテを作成し、さらに写真などを参考になるべくもとの位置へ戻そうとしていました。また、今回の地震で崩れなかった部分も、歪みや、緩みが生じている箇所があるのでこれらの修復も課題となっています。これから本格的に修復が始まるので、2,3年後の姿が楽しみです。

### 南湖公園

次に訪れたのは松平定信によって作られた南湖公園です。公園内には17箇所名所があり、それぞれに漢詩や和歌が刻まれた石碑が建てられています。自然に囲まれています、場所によっては煙突が見えました。景観保護のために煙突を撤去しようにもその煙突も文化財であり、簡単には壊すことができないようです。また、翠楽苑という平成に入ってから造営された庭園もありました。これがいつ造られたかを知らなければ特に気になりませんが、一度知ってしまうとなぜ造ってしまったのか気になります。ここでも除染作業が行われているようですが、湖底のほうは難航してるようです。

### 白河関跡

松平定信が建てた石碑などもありましたが、なんとといってもここで一番の迫力があつたのは従二



崩れた石垣を目の当たりにした小峰城



南湖公園で記念撮影



下総塚古墳（手前の高まり）を見学



まほろんの収蔵庫に圧倒される



実物を手に体験するまほろんの展示

展示室も復元したものと実物が並べて展示されていたり、実際に復元した道具を手にとってみたりでき、展示されているものをより身近に感じることのできる展示手法がとられています。個人的に常々思っているのですが、触れるということはとても大切です。

屋外にも、復元された住居や小さな古墳などがありました。縄文時代の竪穴住居では実際に火をおこしていたようで、木の燃えた匂いが残っていました。復元や保存をするのも大切だと思いますが、それらをどう活用していくのか、これもまた重要な問題です。しかし、体験を重視している「まほろん」では上手くやっているようでした。見たいもの、やりたいことが多く見学時間が短かったのは残念でした。

おわりに

今回初めてツアーに参加しましたが、様々な興味、趣味を持つ方々とお会いできたのはとても貴重な経験でした。また、自分の分野とは違う分野の史跡を見学したり、展示を見たりするのもとても良い刺激になりました。次回は、後輩たちも誘って参加してみようと思います。

位の杉でした。新潟市内ではなかなか見られないような大きさの樹で、遠くから見ても、下から見上げて変わらぬ迫力でした。

#### 下総塚古墳・舟田中道遺跡

下総塚古墳は耕作による墳丘の破壊などによってぼろぼろの状態でした。古墳の周囲には倒れた板碑がいくつか見られましたが、石室の石材を使ったものかどうかは不明だそうです。

下総塚古墳のすぐ脇にある舟田中道遺跡は古墳時代の豪族居館の遺跡で、両者の時期が近いことから下総塚古墳の被葬者と舟田中道遺跡に暮らしていた人々は何らかの関係があると考えられています。

下総塚古墳の北側にある丘陵には野地久保古墳、谷地久保古墳があり、時代は異なりますが少しはなれたところに借宿廃寺、関和久遺跡など古代の地方中枢機関と考えられる遺跡群がみられ、古墳時代から古代にかけて重要な土地であったことがうかがえます。

#### 谷地久保・野地久保古墳

下総塚古墳の北側にある丘陵の谷間に造られた古墳です。野地久保古墳は上円下方墳という珍しい形態の古墳であることが調査からわかっています。しかし、現在の遺跡整備は説明板の設置にとどまっており、墳形をうかがい知るのには難しいです。

谷地久保古墳の整備も同じく説明板のみで、地表に出ている石室は特に覆いなどはされていませんでした。

#### まほろん 福島県文化財センター白河館

整理整頓された収蔵庫でした。ラベルの色などで報告書に記載されているか否かなどが簡単にわかる工夫がされています。震災時は地震対策用のベルトで事なきを得たとのことです。また、福島第2原発近辺の文化財を収蔵する専用の建物もありました。加えて、そこかしこに体験教室用の道具がみられ、力を入れ具合を感じました。

# 「奥州白河の遺跡をたっぷり満喫する旅!!」の感想

佐藤 實（見附市）

去る11月16日の旅行初日の朝、信越線の見附から長岡に向け出発した普通列車が踏切事故のため上下線とも不通になりました。このため新潟駅南口集合時間に間にあわなくなったと一時思いましたが、幸いに事務局の木村さんから駅南の駐車場への道順を教えていただき、車で辛うじて参加することが出来ました。また、旅行の2日間が好天に恵まれましたことを感謝しております。前置きが長くなりましたが探訪の旅に満足し、その感想を順に記したいと思います。

1日目。磐越自動車道経由で白河市到着後、「ホテルサンルート白河」で頂いた昼食の弁当「みちのく“彩（いろどり）”ごっつお弁当」は、周辺市町村の特産を紹介しながらの料理で、美味しくいただいた。昼食後、最初に訪れた国史跡「小峰城跡」で本日の探訪地を案内していただく鈴木功氏を紹介された。このあと小峰城の案内では、解説用パネルが張り出された順に詳細説明を受けた。白河小峰城主の松平定信公（楽翁）の治世の功績は余りにも有名。また、城の絵図面を詳細に作成し、三層櫓や本丸などを偲ぶことが可能という。

小峰城の創建は、南北朝時代に結城氏が小峰の岡に城を築いたのが創めで、秀吉の奥羽仕置きまで結城氏に支配されたという。江戸時代に入ると多くの領主の変遷があり、幕末には会津領で維新を迎え激戦の後落城し、近年本丸の三層櫓と御前門などが復元された。しかし、3.11の大震災での石垣の崩落などの被害で、城内の立ち入り案内は桜之門までで、復旧工事中のために中に入ることが出来なかった。最後に復元工事のため解体した石垣を整理・保存した現地を案内されたあと、次の見学地である南湖公園に向け出発した。

国史跡、南湖公園は松平定信公の治世の時、低湿地帯に堤防（千世の堤）を築き溜地とし用水は耕地に利用し、尚、この地を「士民共楽」の理念のもと、李白の詩から「南湖」と命名し有用に活用したという。また、南湖十七景詩歌碑と南湖開鑿碑などが解説されながら湖堤周辺を散策した。それに、湖堤から遠方に那須連峰などの山並み景観を堪能し散策した後、希望者のみが「翠楽苑」という、池泉回遊式庭園を時間いっぱい楽しんだ。

東山道の奥羽三関の一つたる国史跡の「白河関跡」は白河市旗宿に構築された関跡。勿来、念珠と共に奈良・平安時代から、国堺としてだけの役割でなく東山道の物流、人馬の往來を監視する関として設置され、その機能を果たしたが、律令制の衰退とともに往來の監視機能が薄れたまま永い間その存在すら忘れ去られていた。しかし、西行、芭蕉などの歌人から「歌ごろ」の名所として詩歌をよみ遺され歴史に刻んでいる。

私達は白河の関跡の入り口に建つ「史跡白河関跡」の石碑と案内板で説明をうけ見学をはじめた。江戸時代、松平定信公が寛政12（1800）年に白河の古関を調査された結果、関跡として認められると「古関蹟碑」を建立したと言う。さらに順路から旅立ちの桜、従二位の大杉から坂道をたどり、道の途中に松尾芭蕉の奥の細道の紀行文の石碑を見学し丘陵の頂上部に向かった。頂上平坦部には土塁にかこまれた中世の城館跡と空堀遺構等が遺されていた。頂上部の白河神社は参道の石畳が修復工事中だった。白河の関跡のそぞろ歩き探訪を終了し、駐車場のバスに戻り、初日最後の見学予定の境の明神に向け出発した。

境の明神（別名、二所関とも言う）は、国道294号の隣県那須町との境界地に建立されてあった。明神社は両市町とも其の昔小さな社を建立、街道の往來祈願を双方が競った街道の歴史遺産だった。この社は今でも両市町共に大切にされておるようだ。社の境内に新発田藩主溝口氏が大型石灯籠一



白河関跡で記念撮影



白河市歴史民俗資料館の土器の数々



著名な天王山遺跡を遠望



谷地久保古墳の石室

対を建立してあって街道祈願として奉納されたのに興味を持った。これで初日の見学予定を終了し、宿泊地に向かう。

第2日目の最初の見学池、白河市歴史民俗資料館を訪れ、昨日とおなじ姓の鈴木一寿氏が紹介された。館内の案内は最初、プレ、縄文時代草創期の土器から、石器や装飾品など時代順に案内され、弥生のコーナーでは標式土器の天王山式土器が展示され、時間をかけて良く観せていただいた。古墳から古代になると白河地域を中心に有力豪族が現れ、古代の基幹集落跡や豪族居館の舟田中道遺跡と下総塚古墳、谷地久保古墳、野地久保古墳など多くの遺跡は白河国造に関わるものと考えられ、奈良・平安時代の律令制時代の官衙遺跡群に関連する遺跡群と位置づけられると言う。

中世の白河荘は結城氏が支配したことを示す古文書と関連資料が展示説明されていた。豊臣・江戸時代は多くの支配者の変遷があったが、松平公治世が私には強く印象に残った。

次の見学地に向かう途中、阿武隈川の堤防上から丘陵頂上の天王山遺跡を遠望した後、南北朝時代に築城された南朝方の山城「白河城跡」が国史跡の指定に期待をされていると説明をうけ、目的地に向かった。

白河評の先行遺跡群（国指定 下総塚古墳、舟田中道遺跡、谷地久保古墳、野地久保古墳）「白河舟田・本沼遺跡群」は、白河市内を流れる阿武隈川の右岸地域の河岸段丘上の耕作地の中にあった。最初、横穴式石室を備えた郡内最大の後期前方後円墳「下総塚古墳」を踏査した。次に隣接する古墳時代の豪族居館跡が出土し基幹集落跡と位置づけられる舟田中道遺跡群などは、白河評への先行遺跡群と推定されると説明をうけた。500m位離れた「借宿廃寺跡」は郡衙遺跡と同時期に創建されたもので、案内された堂塔の礎石群は時間をかけて見学した。

これら集中した遺跡群は古墳時代の有力首長の本拠地と推定されると説明され、古代の東北の玄関口として白河地方が中心的役割を担った先行遺跡群と理解した。

阿武隈川左岸の丘陵先端南面すその平坦地に案内される途中で、長い距離の歩行困難者として乗用車で近くまで乗せて頂き、車を降りてから急坂をのぼりへとへとになって「野地久保古墳」に到着した。野地久保古墳は築造形状が上円下方墳と特殊な構造であることと、近年林道を作るときに古墳の石室に用いた切石数個が路肩に放置される。現地を案内した鈴木氏から、「皆さんからは是非見てもらいたい地点があります」と廃林道跡地を案内され、向こう峰の谷筋に構築された谷地久保古墳を遠望した。

この古墳の開口横穴が野地久保古墳を向いて構築されたのは、この古墳埋葬者への祖先崇拜のたちが表れていると説明をうけた後、終末期の「谷地久保古墳」の石室を見学した。

また、見学予定地の関和久官衙遺跡群は時間がなく訪れることができなかったことは残念でありました。

昼食後に訪れた白河駅前道の場門遺構の見学では、「道場」の字句から最初は武術道場から採ったものと一人勝手に解釈しておりましたところ、仏教の道場から採ったものであるとの説明に納得した。

最後の見学地の福島県文化財センター白河館「まほろん」は、センターの方から館内の諸施設の説明をうけ、特に遺物保存・整理の施設が大規模なのに驚いた。説明の中で7年前の中越地震の経験を経て整理棚補強のために管理方法の研究・工夫で3.11の東北地震に耐えた話、遺物検索手法にPCを利用していることを説明され、私は興味を覚えた。

また、特別展のコーナーで、滝桜で有名な三春地域の「湖底に沈んだ縄文遺跡展」を見学した。なかでも複式炉遺構が県内各地で出土したものに非常に類似している遺構の写真パネルに驚き、縄文人が伝える文化に驚かされました。

最後に、何時も他県を見学すると思うことですが、埋蔵文化財や歴史建造物等の文化財を大切に整備保存し、それに多くの市民の方々からボランティアの説明組織を育成し持続させ、行政と共に見学者、観光者に遺跡など文化財の説明を気軽に、しかも積極的に応じている姿勢に感銘を受けますし、私共は参考としなければならないと感じております。今回だけでなくいつも探訪の旅を企画される事務局の方々の御苦勞に感謝いたしております。特に今回は白河市の歴史遺産をたっぷり見学させていただいたことは過去にない旅程でした。晩秋の秋晴れのなか、帰着予定時刻に新潟に帰りホッとした1泊2日の満喫した旅行でした。ありがとうございました。

----- **【参加者の感想】** -----

- 良き研修をさせていただき、有り難う御座いました。小峰城。地震で崩落の石垣について、現代の工法と江戸時代の工法で、後者の工法が石垣には優れていることを知ることができました。旧来の技術継承にも力を注ぐ必要、急務と思います。どの分野にも同様なことと言えるのでしょうか。天王山遺跡の立地。平野との比高差があること、遺物ではアメリカ式石鏃が無かったこと。土器ももう少し展示されていればと感じました。天王山式前後の土器形式も併せて学べればと思いました。次回の研修の旅も期待しております。
- 白河の関、興味深く見学させていただきました。楽しかったですが、「ナゾ」は深まりました。
- 天候にも恵まれ、晩秋の奥州白河を“満喫”させていただきました。福島県の施設運営の視線が県民にしっかり向いていることを、もっと新潟県も学ぶ必要がありましよう。遺物保管はずばらしい一言でした。
- 大震災の影響が方々に散見されましたが、拙速には走ることなく復興に取り組んでいただき、我々の支援も重要なことと思います。まほろんの収蔵庫内を見学でき、自慢の施設でしようが、大変立派だと思いません。収蔵品の展示も、見学者が触れて学べる姿勢がより見えました。

昨年11月16日（土）・17日（日）の両日開催した「奥州白河の遺跡をたっぷり満喫する旅!!～みちのくの玄関口にはぐくまれた豊かな文化～」について、お二人の参加者から参加記をお寄せいただきました。文新協の見学会では珍しく「白河市」というひとつの行政区内での見学となりましたが、そう広くないひとつの市の中にバラエティーに富んだ文化遺産の数々が点在し、それを大切に保存し活用している行政の真摯な姿勢も感じ取ることができました。当日は、素晴らしい秋晴れの中、福島の自然と美味しい食べ物も堪能することができました。これも計画段階から様々なご相談に乗っていただき、当日ご案内いただいた白河市文化財課の鈴木功さんと鈴木一寿さんのおかげです。感謝申し上げます。ご参加いただいたみなさんもうありがとうございました。文新協の見学会も多くの県を訪れましたが、「来年は、まだ行っていない埼玉？」との声も上がっています。次回の見学会にもご期待ください。

(事務局)